



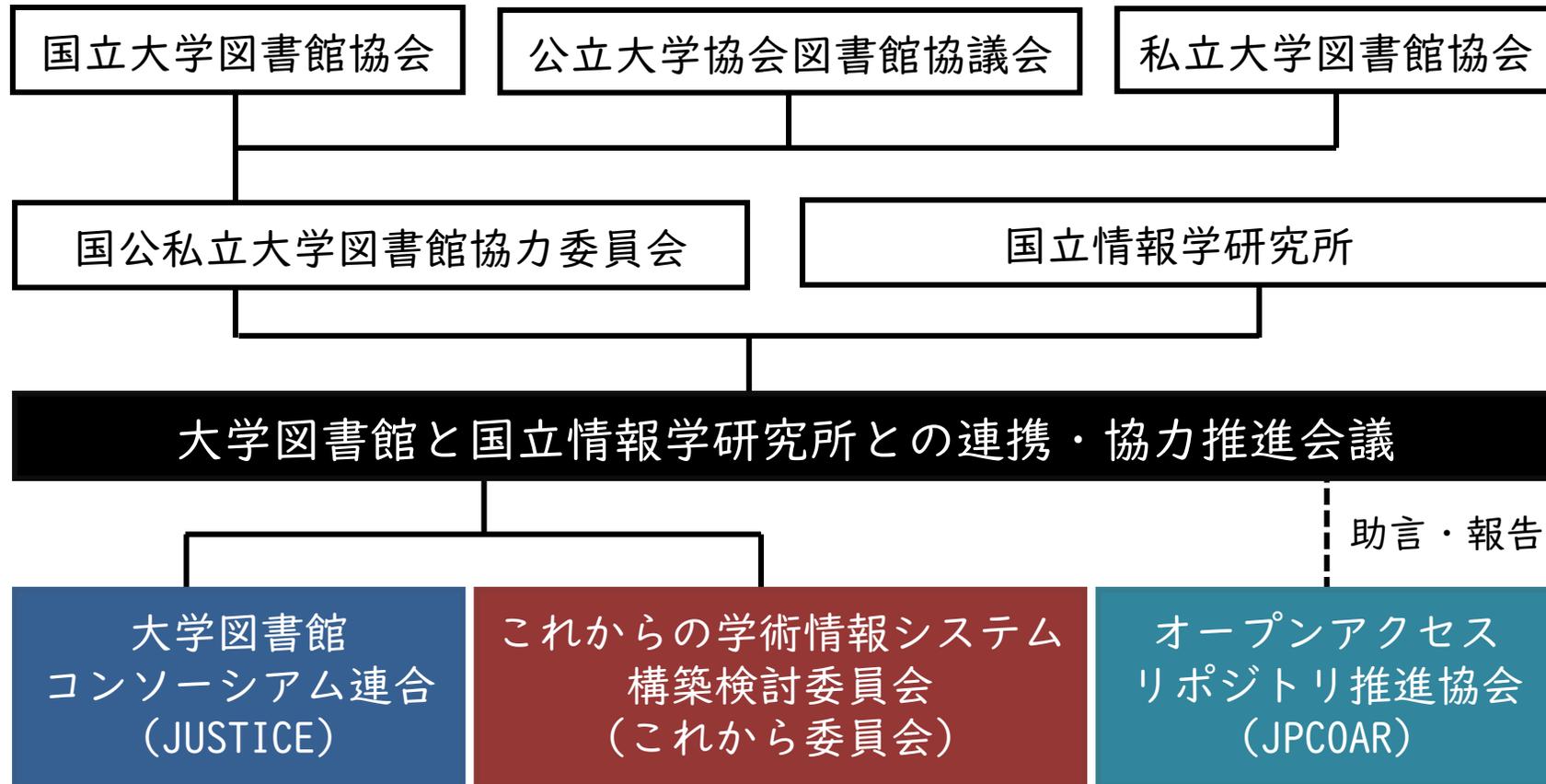
「これからの学術情報システムの在り方 について」（2024）を公開しました

これからの学術情報システム構築検討委員会
小山憲司（中央大学）

目次

- 検討体制の概要
- 検討の経緯
- 「在り方」の変遷
- 「在り方」(2024)の内容

検討体制の概要



	委員会	電子リソース	目録システム
2012	委員会設置	ERDBプロトタイプ構築プロジェクト (-2013)	
2014		電子リソースデータ共有WG	
2015	<u>「これからの学術情報システムの在り方について」</u>	電子リソースデータ共有作業部会 設置 ERDB-JP公開	NACSIS-CAT検討作業部会 設置 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」
2016		「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（平成28年度最終報告）」	「基本方針」 「実施方針」
2017	これからの学術情報システムに関する意見交換会2017	「同（2017年度最終報告）」	
2018	<u>「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」</u>	「電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築についての検討（2018年度報告）」 他	「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）」（→CAT2020）
2019	作業部会の再編	システムモデル検討作業部会 システムワークフロー検討作業部会	
2020			CAT2020開始（8/3）
2021		「大学図書館向け学術情報システムを36年ぶりに一新」	
2022		ユーザーグループ試行運用 「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について(2022)」	
2023	作業部会の再編 <u>「これからの学術情報システム構築検討委員会 が実現を目指すこと」</u>	ユーザーグループ本運用（4/1） ユーザーグループ運営作業部会、システムワークフロー検討作業部会	新NACSIS-CAT/ILL（1/31）
2024	<u>「これからの学術情報システムの在り方について（2024）」</u>		

「在り方」の変遷

2015	2019	2024
(前文) 1. 取り巻く環境の変化	(前文) 1. 取り巻く環境の変化 2. これまでの検討	はじめに
		1. 在り方(2024)のビジョン
2. 進むべき方向性 3. 本委員会の当面の課題	3. 進むべき方向性 4. 次に取り組むべき課題	2. 在り方(2024)の活動目標
4. 大学図書館等と国立情報学研究所の連携による取組み	5. 検討体制	3. 検討体制

2024年2月6日

これからの学術情報システム構築検討委員会

これからの学術情報システムの在り方について（2024）

はじめに

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下に設置された「これからの学術情報システム構築検討委員会」（以下「本委員会」）は、その基本方針と短期の実現目標を提示した「これからの学術情報システムの在り方」を2015年と2019年に公表し、電子情報資源のデータ管理・共有のワークフローの検討及び統合的発見環境の実現に取り組んできた。

学術情報システムを巡って、大学等の図書館（以下「図書館」）は、さらなるデジタルトランスフォーメーション（DX）の促進による利用者サービスの向上や業務効率化が求められている。これに対応するため、図書館は、自ら資料をデジタル化し、他者のデジタル化を支援する

1. 在り方(2024)のビジョン

本委員会は以下の3点を推進するため、国内外の学術情報にか
かるメタデータを活用できる仕組みや制度の整備、共同利用シス
テムの構築、人的リソースの共有や交流を推進する共同・協働の
ネットワークを確立する。

1. 在り方(2024)のビジョン

- (1) 研究者や学生等が研究、教育、学習に必要な学術情報をワンストップで、簡便に検索、入手できる。
- (2) 図書館は、多様なメタデータの組み合わせや、共同利用システムの活用により、目録業務の効率化をはじめ、最適なサービスを実現できる。
- (3) 図書館はまた、学内の関係部署と連携し、大学等の機関で生産される論文、図書、研究データ等の成果をデータとして把握でき、学内外のユーザーに提供できる。

2. 在り方(2024)の活動目標

- (1) 図書館システム・ネットワークの機能強化[(1)、(2)]
 - ①メタデータの共同利用システムへの集約
 - ②統合的なデータベースの構築と図書館システムとの連携
 - ③次世代検索サービスの検討と実現
- (2) システムの共同調達・運用の支援[(2)]
- (3) オープンなメタデータ交換の推進[(1)、(2)]
- (4) メタデータの多様化に対応できる人材の育成[(2)、(3)]
- (5) 学術情報資源の把握と共有[(1)、(2)、(3)]

3. 検討体制

2 の具体的な取組みは、大学図書館等と国立情報学研究所との連携の下、以下の体制で進める。

- (1) 本委員会の下に、上記方針に対応した新たな検討体制を組織する。
- (2) ライセンスされた電子情報資源の確保を強化する「大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)」、大学等の研究成果の発信システムを強化する「オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)」とともに課題の解決に向けた具体的な取組みに着手する。
- (3) 大学図書館の各協(議)会等及び関係諸機関と一層の連携を図る。

3. 検討体制

2 の具体的な取組みは、大学図書館等と国立情報学研究所との連携の下、以下の体制で進める。

(1) 本委員会の下に、上記方針に対応した新たな検討体制を組織する。

システムワークフロー検討作業部会
(主査：飯野勝則 佛教大学図書館専門員)

ユーザーグループ運営作業部会
(主査：安達匠 國學院大學学術メディアセンター事務部図書館担当次長)

本日のスケジュール

時間	内容
14:30-14:40	「これからの学術情報システムの在り方について」(2024)を公開しました 小山憲司 (中央大学)
14:40-15:15	「在り方(2024)」座談会 飯野勝則 (佛教大学図書館)、安達匠 (國學院大學学術メディアセンター)、 吉田幸苗 (国立情報学研究所)、小山憲司
15:15-15:30	NACSIS-CATのNCR2018適用について 木下直 (東北大学附属図書館)
15:30-15:40	新NACSIS-CAT/ILLの変更点と今後の予定について 阪口幸治 (国立情報学研究所)
15:40-15:50	電子リソースデータ共有サービス「タイトルリスト (JUSTICE)」正式公開 三村千明 (国立情報学研究所)
15:50-16:00	質疑応答

ご清聴ありがとうございました